

【原文①】

元氣陽也，主生；自然而化陰也，主養凡物。天陽主生也，地陰主養也。日與晝，陽也，主生；月星夜，陰也，主養。春夏，陽也，主生；秋冬，陰也，主養。甲丙戊庚壬，陽也，主生；乙丁己辛癸，陰也，主養。子寅辰午申戌，陽也，主生；丑卯巳未酉亥，陰也，主養。亦諸九，陽也，主生；諸六，陰也，主養。男子，陽也，主生；女子，陰也，主養萬物。雄，陽也，主生；雌，陰也，主養。君，陽也，主生；臣，陰也，主養。天下凡事，皆一陰一陽，乃能相生，乃能相養。

【読み下し①】

元氣は陽なり、生を主り、自然として化するは陰なり、凡物を養うを主る。天 陽にして生を主るなり、地 陰にして養うを主るなり。日と昼と、陽なり、生を主り、月、星、夜 陰なり、養うを主る。春夏 陽なり、生を主り、秋冬 陰なり、養うを主る。甲丙戊庚壬 陽なり、生を主り、乙丁己辛癸 陰なり、養うを主る。子寅辰午申戌 陽なり、生を主り；丑卯巳未酉亥 陰なり、養うを主る。亦た諸九 陽なり、生を主り、諸六 陰なり、養うを主る。男子 陽なり、生を主り、女子 陰なり、萬物を養うを主る。雄 陽なり、生を主り、雌 陰なり、養うを主る。君 陽なり、生を主り、臣 陰也、養うを主る。天下の凡事、皆な一陰一陽、乃ち能く相い生じ、乃ち能く相い養う。

【訳①】

元氣は陽であり、生（万物を作り出すこと）を司り、自然（としていて万物を育て、形を変わらせるの）は陰であり、養（万物を育て上げること）を司る。天は陽であり、生を司り、地は陰であり、養を司る。太陽と白昼は陽であり、生を司り、月と星と夜は陰であり、養を司る。春夏は陽であり、生を司り、秋冬は陰であり、養を司る。甲丙戊庚壬は陽であり、生を司り、乙丁己辛癸は陰であり、養を司る。子寅辰午申戌は陽であり、生を司り、丑卯巳未酉亥は陰であり、養を司る。また陽爻は陽であり、生を司り、陰爻は陰であり、養を司る。男子は陽であり、生を司り、女子は陰であり、萬物を養い育てることを司る。雄は陽であり、生を司り、雌は陰であり、養を

司る。君主は陽であり、生を司り、臣下は陰であり、養を司る。世の中の万物はすべて陰と陽が対になり、そこで次々ものを生み出して養うことができる。

【注①】

○自然而化

『老子』第五章「天地不仁」河上公注「天施地化、不以仁恩、任自然也。」18

『太平經鈔』乙部卷二「元氣自然、共爲天地之性也。」6b

○天陽主生也、地陰主養也

『莊子』外篇・田子方「至陰肅肅、至陽赫赫。肅肅出乎天、赫赫發乎地。」712

『太平經鈔』丙部卷三「天者主生、稱父。地者主養、稱母。人者爲治、稱子。」10b

『太平經鈔』丁部卷四「道者天也、陽也、主生。德者地也、陰也、主養。」12a

○日與晝陽也……月星夜陰也

『管子』四時「日掌陽、月掌陰、星掌和。」855

『淮南子』說山訓「日出星不見、不能與之爭光也」注「星、陰也、不能奪日之光也。」1109

『太平經鈔』丙部卷三「日、陽也。星、陰也。故日見即星逃、星見即日入。」21b

○春夏陽也……秋冬陰也

『礼記』祭統「祭有四時。春祭曰禘、夏祭曰禘、秋祭曰嘗、冬祭曰烝。禘禘陽義也。嘗烝陰義也。」1606

『春秋繁露』官制象天「天地之理、分一歲之變爲以四時、四時亦天之四選已。是故春者少陽之選也、夏者太陽之選也、秋者少陰之選也、冬者太陰之選也。」218

○甲丙戊庚壬陽也……乙丁己辛癸陰也

陽干…甲（きのえ）丙（ひのえ）戊（つちのえ）庚（かのえ）壬（みずのえ）

陰干…乙（きのと）丁（ひのと）己（つちのと）辛（かのと）癸（みずのと）

『太平經鈔』庚部卷七「草者木之陰也、與乙相應。木與甲相應、甲者陽也、與木同類、故相應。乙者陰也、與草同類、故相應。」41b

『周易』繫辭上「天一地二、天三地四、天五地六、天七地八、天九地十。」正義「此言天地陰陽自然奇偶之數也。」81

○子寅辰午申戌陽也……丑卯巳未酉亥陰也

『太平經』卷六十九·天讖支干相配法第一百五「天之十干，皆有配合，地道十二支，同有陰陽奇偶」273

○諸九陽也……諸六陰也

『周易』乾「初九、潛龍勿用」正義「居第一之位，故稱初，以其陽爻，故稱九。……陽爻稱九、陰爻稱六，其說有二。一者乾體有三畫，坤體有六畫，陽得兼陰，故其數九、陰不得兼陽，故其數六。二者老陽數九、老陰數六、老陰老陽皆變，周易以變者為占、故杜元凱注襄九年傳遇艮之八、及鄭康成注易，皆稱周易以變者為占，故稱九稱六」13

○男子陽也……女子陰也、主養萬物

『周易』繫辭上「日月運行、一寒一暑、乾道成男、坤道成女。」76

『老子』第二十五章「可以為天下母」河上公注「道育養萬物精氣、如母之養子。」101

○雄陽也……雌陰也

『說苑』辨物「陽者陰之長也。其在鳥則雄為陽雌為陰，其在獸則牡為陽而牝為陰，其在民則夫為陽而婦為陰，其在家則父為陽而子為陰，其在國則君為陽而臣為陰。」18/5

○君陽也……臣陰也

『周易』繫辭下「陽一君而二民、君子之道也。陰二君而一民、小人之道也。」注

「陽、君道也。陰、臣道也。」87

○天下凡事皆一陰一陽

『周易』繫辭上「一陰一陽之謂道。繼之者善也、成之者性也。」78

※楊寄林譯注『太平經』「以上所云，可與馬王堆漢墓帛書『黃帝四經·稱』之陰陽論相參稽，即…凡論必以陰陽大義。天陽地陰，春陽秋陰，夏陽冬陰，晝陽夜陰。大國陽小國陰，重國陽輕國陰。有事陽而無事陰，伸者陽而屈者陰。主陽臣陰，上陽下陰，男陽女陰，父陽子陰，兄陽弟陰，長陽少陰，貴陽賤陰，達陽窮陰。娶婦生子婦，有喪陰。制人者陽，制於人者陰。客陽主人陰，師陽役陰。言陽默陰，予陽受陰。」

【原文②】

一陽不施生，一陰並虛空，無可養也。一陰不受化，一陽無可施生統也。陽氣一統絕滅不通，為天大怨也。一陰不受化，不能生出，為大咎。天怨者，陽不好施，無所生，反好殺傷其生也。地所咎，在陰不好受化，而無所出養長，而咎人反傷其養長也。天不以時雨，為惡凶天也；地不以生養萬物，為惡凶地也。男不以施生，為斷天統；女不以受化，為斷地統。陰陽之道絕滅無後，為大凶。比若天地一旦毀，而無復有天地也。

【読み下し②】

一陽 生を施さざれば、一陰 並びに虚空にして、養う可き無きなり。一陰 化するを受けざれば、一陽 生統を施す可き無きなり。陽氣一統絶滅して通じざれば、天の大いに怨みと為り。一陰 化するを受けず、生み出す能わざれば、大に咎めと為り。天の怨むる者は、陽 施すを好まず、生ずる所無く、反つて其の生を殺傷するを好むなり。地の咎むる所は、陰 化するを受くるを好まず、而して出だして養長する所無く、而して人を咎め、反つて其の養長を傷けるに在るなり。天 時雨を以てせずんば、悪凶天と為すなり。地 萬物を生養するを以てせずんば、悪凶地と為すなり。男生を施すを以てせずんば、天統を断つと為す。女 化を受くるを以てせずんば、地統を断つと為す。陰陽の道 絶滅して後無からざれば、大凶と為す。比して天地一旦毀れ而して復た天地有る無きの若きなり。

【訳②】

一つの陽たるものが生育させないと、それと対となる陰たるものは生み出すものもなければ、養い育てるものもない。一方、一つの陰たるものが生を受け入れないと、それと対となる陽たるものは生育させようがない。かくして陽気の系統が断絶し、天に大いに怨まれることになる。陰が生を受け入れなく、ものを生み出せなく、(地)に大いに咎められることになる。天が怨むのは、陽が生育させることを好まず、ものを生み出さないどころか、かえって生育を損なう行為を好むことである。地が咎めるのは、陰が生を受け入れることを好まず、ものを生み出さず、養い育てず、人を咎め、逆にその成長を損なうことである。天はちようどよい時に雨を降らさなければ、悪凶天となる。地は万物を生養しなければ、悪凶地となる。男子は生育させなければ、天の系統を断絶させることになる。女子は生を受け入れなければ、地の系統を断絶させることになる。陰陽の道は断絶し、後継ぎがいなければ、滅亡を招くことになる。喩えれば天地が一旦滅んだら、もう取り返しがつかなくなる。

【注②】

○施生

『白虎通』五行「水木可食、金火土不可食何。木者陽、陽者施生、故可食。火者陰在內、金者陰畜吝、故不可食。」191

○陽氣一統絕滅不通（陽氣の系統Ⅱ天の系統）

『太平經』卷九十二・萬二千國始火始氣訣第一百三十四「夫天地人、相須而立、相形而成。比若人有頭足腹身、一統凶滅、三統反俱毀敗。」373

『太平經鈔』乙部卷二「故純行陽、則地不肯盡成。純行陰、則天不肯盡生。當合三統、陰陽相得、乃和在中也。古者聖人治致太平、皆求天地中和之心、一氣不通、百事乖錯。」76

○養長

『荀子』王制「君者、善羣也。羣道當、則萬物皆得其宜、六畜皆得其長、羣生皆得其命。故養長時則六畜育、殺生時則草木殖、政令時、則百姓一賢良服。」165

『管子』四時「春羸育、夏養長、秋聚收、冬閉藏。」847

○時雨

『尚書』洪範「曰休徵。曰肅、時雨若」孔伝「君行敬則時雨順之。」192

○天統・地統

『漢書』劉向傳「王者必通三統」顏師古注引張晏曰「一曰天統、爲周十一月建子爲正、天始施之端也。二曰地統、謂殷以十二月建丑爲正、地始化之端也。三曰人統、謂夏以十二月建寅爲正、人始成立之端也。」1950

○無後

『左伝』成公八年伝「韓厥言於晉侯曰、成季之勳、宣孟之忠、而無後、爲善者其懼矣。」1905

○大凶

『國語』越語下「天節不遠、五年復反、小凶則近、大凶則遠。」韋昭注「大凶、謂死滅。」